

平成30年度 会派調査研究報告書

(視察先1か所につき1枚)

会派名	蕪政クラブ	
出席者	西野 賢一 小沢 栄一 金井 洋介	
事業名	小中一貫教育	
事業区分	①研究研修	②調査

1. 蕪崎市での課題と研修・調査の目的

少子化が加速している蕪崎市においては、平成28年度から「少子化・人口減少に対応した活力ある学校推進事業」を行い、ICTを活用する等、小規模校の活性化を図ってきた。
 しかし、学校の児童数が減少していることを鑑みると、将来の小中一貫教育についても考えなくてはならない。そこで「幼保小連携教育」に引き続き、学校分離型の「小中一貫教育」を推進する茅野市の取り組みを学ぶ。

2. 実施概要

実施日時	平成 31年 2月 7日 (木)	13:30 ~ 15:30
視察先	長野県茅野市	
担当部局	教育委員会 学校教育課 幼児教育課	

報告内容

- 目的
茅野市の小中一貫教育は、市内を4つの中学校区園として、学校区園ごとに課題・育てたい子ども像を明らかにし、小中学校の9年間を通じた教育目標・構想を定め、一貫した教育を展開すること。
- 茅野市の特徴ある取り組み
 1・茅野市型コミュニティスクール
 茅野市型コミュニティスクールとは、学校と地域の皆さんが継続的かつゆるやかに連携して知恵を出し、協働しながらより良い学校運営を目指す仕組みをもった学校のこと。茅野市型コミュニティスクールは、地域に根差したまちづくりに参画することで、子どもも大人も共に育つ「共育ち」を目指している。
- 2・縄文プロジェクト
 特別史跡「尖石石器時代遺跡」を有する茅野市せは、縄文の価値を考古学の世界だけにとどめず生活の中で普遍性を持たせる取り組みを行い茅野市の「宝」を磨き育てている。

1. 運営状況

●4つの柱

1・すべての教育活動の基盤として、読書・図書活動を大切にしている。

2・子どもの発達段階を考慮し、小4までのベーシック期、中1までのグローアップ期、以降のジャンプアップ期に区分し、それぞれの区分期の特徴・課題を踏まえた教育の展開。

3・小中で共通の教育観に立ち、先生が一方向的に教える知識伝達型の授業から、子どもたちが自分で考え、わからない点や困った点は友達の意見もよく聞いて考えを追求し、ともに学力を高め合う学びへの転換を図っている。

4・「縄文科」「心の教育」「外国語活動・英語教育」「ICT教育」等に力を入れている。

●心の教育

「心のよつばのクローバープラン」を策定し、いじめや不登校などの最近の学校が抱える課題に対し心の教育の充実、コミュニティスクールの促進にも力を入れ、地域の方を講師に迎え子どもたちに授業を行うなど地域と連携を密にした学校教育を展開。

2. 考察（これらの取り組みを葦崎市にどう活かせるか）

茅野市では「幼保小連携教育」に引き続き施設分離型の「小中一貫教育」を推進する中で、学校、家庭及び地域が一体となったコミュニティスクールを中核とした学校運営に取り組んでいる。利点としては子ども達の良いところを進級、進学時にも共有して地域全体で子ども一人一人を認める環境が整っている点である。

核家族化が進み地域との関わりが希薄になりつつある現代社会において、今一度「子どもは地域の宝」であることを再認識し、児童・生徒、保護者、学校、地域が連携する仕組みを構築することは将来の地域を支える人材育成の面からも重要である。

葦崎市でもコミュニティスクールの導入をはじめ、多くの点で参考になるので研究を進め、提言へと繋げていきたい。